

がでているからというわけで、あまり内容の検討もせず、どうも計算機は思ったより処理速度が遅いと、計

算機の性能に罪をかぶせている場合が多いのではないだろうか？

コ ボ ル 短 信 (6)*

西 村 恕 彦**

アメリカにおけるコボルの利用状況について、アメリカ海軍がアウエルバツハ社に委託した調査の結果が、コダシル計画委員会から1969年3月13日に発表された。その概要は次のとおりである。

- (1) コボルはさらに広く使われる傾向である。
- (2) IBMの第三世代の小型機(smaller configuration)の利用者は、コボルを75ないし100%使

っている。

- (3) 他の製造業者の機種の利用者は、コボル、フォートラン、アセンブラを同等に使っている。
- (4) 回答の三分の二は、社内で標準コボルを設定している。
- (5) 回答においてコボルの真価とされたのは、文書化、学習の容易さ、機種による共通性である。
- (6) コボルで拡張するように期待されている機能は、ビット操作、テレプロセッシング、データ通信の能力である。

* COBOL News and Olds (6), by Hirohiko Nishimura (MITI)

** 通商産業省工業技術院

雑 報

「情報処理分野における応用磁気」シンポジウム案内

主 催 日本学術振興会応用磁気第137委員会
日 時 昭和45年1月30日(金) 9.30~16.30
場 所 機械振興会館地下2階ホール(東京都港区芝公園21-1-5)
議 題 (1) Computerの動向と磁気素子の役割 石立 喬(日電)
 (2) 計測、パターン認識分野の磁気応用 大照 完(早大)
 (3) データ通信システムにおける磁気応用 別所照彦(通研)

- (4) フェールセーフ論理系における磁気素子(電子計算機式運動装置, CTC など) 奥村幾正(鉄研)
- (5) パネルディスカッション (13.30~14.30)
 「情報処理分野における応用磁気の将来」 司会 後藤英一(東大)
 パネリスト: 大島信太郎(国電電々), 喜安善市(岩通), 桜井良文(阪大), 垂井康夫(電試), 近角総信(東大), 牧野 昇(三菱製鋼)
 レポーター: 「情報技術と磁性体」高橋秀俊(東大), 「オルソフェライトとその応用」清水祐信(通研), 「磁気記録と計測」植村三良(ソニー)

「応用磁気の将来」について意見、質疑のある方は可能な限り当日の討論に繰り込まれますので、1月20日までにお知らせ下さい。通知先: 新宿区西大久保早大理工学部応物 大照 [(363)3211], または川崎市下沼部日本電気中研記憶固体研究部 石立 [(044)(41)1111].